



新年のごあいさつ

大東文化学園生活協同組合
専務理事 石橋 健司

新年あけましておめでとうございます。大東文化大学は2023年に創立100周年を迎えました。6月には卒業生を招待した「ホームカミング」が行われ、生協では学生からアイデアを公募し、食堂で「100周年記念丼」をご提供し大変喜ばれました。今年新たに食の定期券である「ミールシステム」を導入し、学生の食生活の改善に取り組みます。学びの分野でも、昨年スタートした、大東生が講師となって新入生に教えるパソコン講座が申込100名を超え、今年は200名を目標にしています。これからも学生の食と学びをしっかり支えてまいります。本年もよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ

十文字学園生活協同組合
専務理事代行 矢葺 誠司

新年明けましておめでとうございます。2022年度から対面授業が再開され、学生が登校するようになり、以前のようなキャンパスの活気が少しずつ戻ってきました。しかし、大学の入学者数が3年連続で減少しており、コロナ禍を経て学生のライフスタイルの変化とともに、生協をめぐる事業環境は厳しさを増しています。生協の供給高は2019年度と比べ、購買書籍部で約55%、カフェテリアで約75%の利用状況となっています。そんな中、学生委員会に1年生が12名入ってくれました。事業的には厳しい状況が続くかと思いますが、生協役員、学生委員、生協職員と力を結集し、十文字学園女子大学と組合員に選ばれ、支持される生協を目指して頑張っていきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



埼玉県生活協同組合連合会
会長理事 吉川 尚彦

あけましておめでとうございます。昨年も埼玉県行政をはじめ、県議会、県内諸団体の皆様より、当会および埼玉県内の生協に対し多大なご支援をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。2023年は急速な物価の高騰が組合員の暮らしと生協事業に大きく影響しました。商品価格が上昇した分、購入する商品点数が減少するなど、家計の節約に苦勞している様子が見取れます。一方、長く続いたコロナ禍の行動制限が解除され、組合員や消費者の活動では、オンラインを併用しつつも実際に集まる機会が増え、日常が戻ってきました。各界の皆様とも対面でつながることができ、顔の見える関係の大切さを実感することができました。県内の生協では、事業を通じて組合員の暮らしを支えるとともに、地域の居場所づくり、生活困窮者への食料の寄贈、市民団体への助成などを通

じた活動支援、埼玉県が進める子育て支援策への協力、消費者被害を未然に防ぐ活動、災害支援募金やパレスチナ人道支援募金、平和を求める活動など、行政や諸団体とも連携しながら、助け合いの組織として取り組みを広げてまいりました。2024年も食料やエネルギー価格の高止まりのもとでの暮らしが続きます。資材コストの上昇に加え、少子高齢化と人口減少による宅配や福祉事業における人手不足も顕著になっており、事業経営もより厳しさを増してまいります。SDGsも目標年までの折り返しを過ぎ、気候変動、自然災害、食料問題、世界的な紛争など解決しなければならない課題も山積しています。埼玉県生協連は、「安心して暮らし続けられる地域(埼玉)社会」と「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現に向け、行政・諸団体の皆様と連携をさらに深め、「ずっとくらしのなかに」あり続けられる存在となるよう活動を進めてまいります。引き続き、各界の皆様よりご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。結びにあたり、皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、新年のごあいさつに代えさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ

淑徳大学みずほ台生活協同組合
専務理事 松原 健司

新年あけましておめでとうございます。淑徳大学みずほ台生活協同組合は新年度で27年目を迎えます。2023年度より淑徳大学埼玉キャンパスでは学部の再編が行われ、「経営学部」が東京キャンパスへ移転し「地域創生学部」が新設されました。再編初年度ということもあり、大学や学生から求められることも変化してきています。2023年度はコロナ禍で停滞していた学生委員会の活動が活発化してきました。新しい環境の中でも生協が出来ることを考え、大学・組合員から必要とされる生協を目指していきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ

コープデリ生活協同組合連合会
理事長 熊崎 伸

あけましておめでとうございます。日常生活、経済活動が活発になる一方、物価高騰で私たちの暮らしは厳しさを増しています。貧困と格差のさらなる拡大が懸念され、地域に根差した生協の果たすべき役割はますます重要になっています。「未来へつなごう」をスローガンにSDGsの取り組みをさらに前進させ、持続可能な社会の実現に積極的に関与します。現在、次期ビジョン「ビジョン2035」の検討を組合員・職員と一緒に進めています。コープデリグループ530万人の組合員と2万5,000人の職員と一緒に掲げるビジョンです。くらしや事業を取り巻く環境が大きく変化する中だからこそ、組合員の願いや要望を受け止め、職員一人ひとりが元気に働き続けられる組織を目指します。激変する経営環境にこれからも対応し続け、組合員に寄り添う事業と活動に邁進してまいります。



生活協同組合コープみらい
理事長 熊崎 伸

あけましておめでとうございます。コープみらいは昨年、創立10周年を迎えました。組合員をはじめ、これまで支えてくださった皆さまに心より感謝申し上げます。コープみらいは助け合いの組織として、困難を抱える方々に寄り添う活動を進めています。約200トンのお米を1年間、地域のフードバンクなどに寄贈する取り組み。ひとり親家庭などの子どもの就学・進学を支援する「コープみらい奨学金」。「子ども・子育て支援基金」では、組合員から寄せられた書き損じはがきなどを原資に、国内外で飢餓や貧困に苦しむ子どもを支援しています。現在、コープデリグループ次期ビジョン「ビジョン2035」の策定を組合員・職員と一緒に進めています。これからも「未来へつなごう」をスローガンに持続可能な社会をめざし、事業と活動の総合力で組合員の暮らしに貢献してまいります。



新年のごあいさつ

生活協同組合パルシステム埼玉
理事長 樋口 民子

新年あけましておめでとうございます。2023年はコロナ禍も落ち着き、日常生活が戻ってきました。しかし、地球温暖化や世界各地での戦争、くらしの足元では物価高が続くという中で、これから先の社会に不安感や閉塞感が出てきているのも確かです。2024年は、組合員の不安や悩みに応えるためにも、安全で安心な商品の供給事業を中心に、食や農、環境や平和の活動、また介護や子育て、健康、家計の管理などのくらしに寄り添った事業と活動を広げていく必要性を感じています。そして、不安な時代だからこそ組合員や産地、メーカー、地域の方々と一緒に支えあって安心してくらしを築き上げていきたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。





新年のごあいさつ

生活クラブ生活協同組合
理事長 石井 清美

新年あけましておめでとうございます。
本年は生活クラブ埼玉設立から50年の節目の年となります。「つな

がろう つなげよう」を合い言葉に50周年の記念企画をすすめます。コンセプトを「未来へ向けて、人と、地域と、生産者と、つながりをつくること、くらしを見つめなおす。」とし、組合員同士のつながりはもちろんですが、経済だけのつながりではなく多角的に社会的な連帯をめざします。

昨今の景況は市民の生活に打撃を与え、本年も厳しい年になりそうです。より良い生活を手にするためにワーカーズ、地域コミュニティなど社会的なつながりはますます必要になっていくことでしょう。県内各生協や行政機関ともつながり高め、私たちが望む社会づくりをすすめていきたいと思ひます。

本年もよろしくお願いいたします。



感謝
そして、
地球に 社会に 人に
限りなくやさしい
組織を目指して

埼玉県勤労者生活協同組合
理事長 柳川 聡一

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

当組合にとっては70周年を迎える節目の年が始まり、世界はますます変化しています。状況が不確かな中でも、皆様と共に新たな一年を迎えられることを大変喜ばしく思ひます。

健康と安全が最優先であり、家族と友人との絆を大切に、互いの幸福が永遠に続きますようお祈り申し上げます。また、社会的な困難や課題に立ち向かうため、一緒に協力し、共感し、理解し合うこと、一人ひとりの小さな善意と行動が、大きな変革をもたらすことができます。

どうぞ、新年が素晴らしいものでありますように…。



安心して生活できる
住まい・社会を目指して

さいたま住宅生活協同組合
理事長 後藤 晴雄

明けましておめでとうございます。

私たちは住宅専門の生協として、24,000人の組合員に依拠し「持続可能な住まいづくり」を目指して事業を続けてきています。

昨年は、「観測史上初めて」という記録づくしの天候が続き、地球温暖化を超えて「沸騰化」という言葉まで使われるようになってきています。猛暑や寒さの影響を受けず、健康で快適に過ごせ、また省エネにも効果のある、住宅の断熱化の推進は、これからの住まいにとってますます大きな課題となっています。新築やリフォームに関わらず、こうした課題に対応できるように、今年も組合員のニーズに寄り添いながら住宅事業に取り組んでまいります。また混迷の続く世界情勢ではありますが、憲法を守る運動、平和を求める運動も併せて進めてまいります。

今年が皆様方にとって、安心して生活できる笑顔あふれる年になることをお祈りし、新年のあいさつといたします。



高齢者の仕事おこしを
使命として！

生活協同組合・さいたま高齢協
理事長 坂林 哲雄

高齢者版の労働者協同組合として設立した高齢協も20年の節目を超えました。少子高齢化が進み、地域で必要とされる

仕事が衰退する中で、元気な高齢者の仕事おこしは全国津々浦々の課題です。

広島市が10年前から始めた協同労働団体の設立支援事業は市内に31団体の活動を作り出しています。団地の高齢化で増える空き地や空家、一人暮らしの生活支援に乗り出したのは、自治会活動を出発とした「GO郷まつおね」です。農協の組合員が中心となって作った「アグリアシストとも」は、農業の担い手不足対策と、不耕作地を防ぎ、地域の景観を守るために活動しています。

国連は2025年を2度目の協同組合年と決めました。生協という枠を超えて、協同組合が地域づくりに協同することも考えていきたいと思ひます。



平和にこだわる1年に

医療生協さいたま生活協同組合
理事長 雪田 慎二

新年あけましておめでとうございます。日頃より医療生協の活動をご支援いただき誠にありがとうございます。

新型コロナパンデミックがようやく下火になり、少しほっとした気持ちで新年を迎えておられるかと思ひます。普通の暮らしができる出来事があることがありがたさを感じます。しかしながら世界に目を向けますと、ウクライナやパレスチナなどでは戦闘が続き、一般市民や子どもたちが体だけではなく心も傷つき、そして命が奪われる事態が続いています。核兵器使用の脅威もなくなっていません。

私たちは、これからも命の平等を貫き、世界全体が戦争のない平和な社会となるよう、今年も皆様方と一緒に取り組んでまいります。

この新しい年が皆様方にとって健康で笑顔ある一年となることを心より祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

埼玉県労働者共済生活協同組合
理事長 金井 浩

新年明けましておめでとうございます。

コロナ禍がもたらした社会の混乱から4年が経過し、私たちの生活はかつての平常時に戻りつつあるものの、生活者のライフスタイルや価値観が多様化し、社会情勢も様変わりする中で、組合員の意識や共済制度に対するニーズもまた変化しています。

このような中、埼玉共済は2024年3月に創立60周年を迎えます。これまで運動と事業の前進にご協力いただいた関係団体の皆さま、組合員の皆さまに感謝申し上げます。

引き続き、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の理念のもと、子どもの健全育成や社会課題の解決に寄与する取り組みなど、組合員の皆さまに寄り添い、安心と信頼の「共済生活協同組合」の役割を果たしてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



新年のごあいさつ

埼玉大学生協同組合
専務理事 河本 健太郎

新年明けましておめでとうございます。

2024年は総代会で確認した中期計画(2023-2025)の2年目となります。

経営数値的にはまだまだ厳しい状況が続いていますが、コロナ禍で停滞していた様々な取り組みや活動を再開しています。とりわけ、大きく人数が増えた学生委員会は対面での企画を再開しています。

このような状況の中、埼玉大生協では大学生同士の交流やコミュニティ作りなどに貢献できるように様々な取り組みを行ってまいります。現在も4月からの新入生向けの企画を教職員・学生委員会一同となって準備しています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ

跡見学園女子大学生協同組合
専務理事代行 吉永 治礼

新年明けましておめでとうございます。

跡見学園女子大学では、昼休みの需要など、にぎわう時間もあり、友達との会話、笑いあう様子などが見受けられ、日常を取り戻しつつあります。しかし、2019年度比較で6割ほどの回復状況で、依然として厳しい経営状況は続いております。いまだに対面講義でも、友人がいなくて居場所がない、友人とつながれず孤独など、大きな不安が聞かれています。

生協では、どうしたら学生さんの“危機”に対応していけるのか、感謝されるために何ができるか、試行錯誤の毎日です。学生と協力し、この“危機”に総体で取り組んでいく決意です。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

